

# 奈義町現代美術館と山

奈義町現代美術館と山

藤本 正敏



藤本  
正敏



# 奈義町現代美術館と山を知る 見学レポート

絵・イラスト・文-藤本 正敏

今回の行き先の一つは、岡山北東部の磯崎新氏設計による奈義町現代美術館です。直方体と横になった円柱の建物が広い敷地に建っていました。内部は図書館と美術館に利用されていました。常設展示は、揺れる真鍮パイプの彫刻と仰天の空間を体験をさせてくれる「太陽の部屋」「月の部屋」があり、市民ギャラリーでは、能勢伊勢雄氏の写真展が行われていました。

奈義町の次は、西粟倉へ移動して森林見学です。「森の学校」で、井上氏（講師）に木材の現状の講義受け、知識を得た後 山へ移動しました。前日に降った雪の残る山道は里とは違い冷ええました。間伐の行われた理想の斜面へと、全員徒歩移動です。流石、日の差し込んだ場所は立派な樹木に囲まれ 一目で気に入りました。現地ならばこそこの 本当の意味での間伐の大切さを知りました。そして山の循環も知りました。伐採後の集積場所で樹木について学習しました。山をおり 森林組合の間伐材集積場へ移動、原木から製品への話を隣接の加工工場で製品加工の状況を見学しながら聞きました。第1次産業に従事する生産者が、加工(2次産業)及び流通・販売(3次産業)まで視野に入れた6次産業化を目指す山の話をみんな しっかり勉強した一日でした。



# ■ もくじ

奈義町現代美術館	5
中庭を通路から眺める	7
「太陽の部屋」「月の部屋」	9
中庭から「月の部屋」を見る	11
奈義町現代美術館の周辺建物	13
西粟倉の森の学校	15
西粟倉の森の学校 - 2	17
西粟倉の山林	19
西粟倉山林の集積場	21
森林組合の間伐材集積場	23
加工工場にて	25
あとがき	27



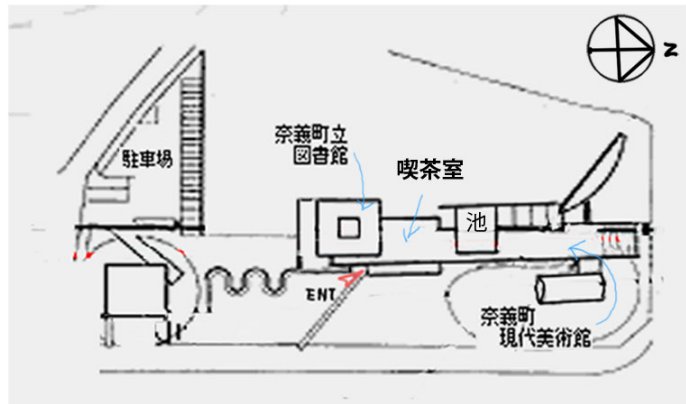
行き先 MAP



# 奈義町現代美術館



今回見学した建物は、奈義町現代美術館です。図書館・レストラン等いくつかの独立した棟の集合体でした。そのなかで奈義町現代美術館（Nagi MOCA）と呼ばれている棟は、入口を入り右手の池に面した喫茶室から北側の奥にあたる部分でした。左手の2、3階には、図書館があり、その下階には小さい町民ギャラリーが設けられていました。レストラン棟はさらに南側に分離されていますが、ここはこの美術館を訪れるであろう人達の食事や休息の場所です。町の特産品の売場もあり、建物全体が竹林で囲われていました。これらの施設は基本的に町民の利用のために建設されたことと云うことでした。



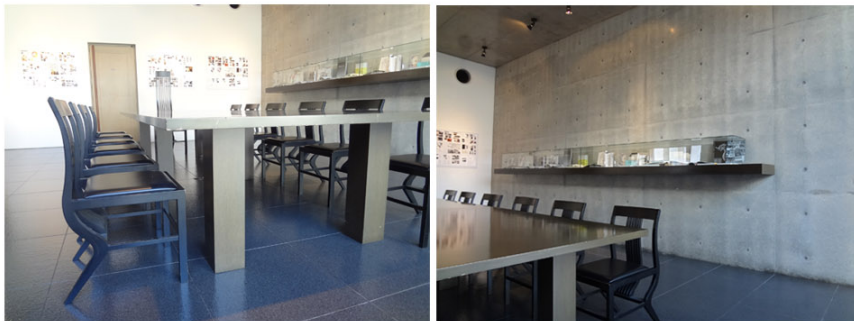
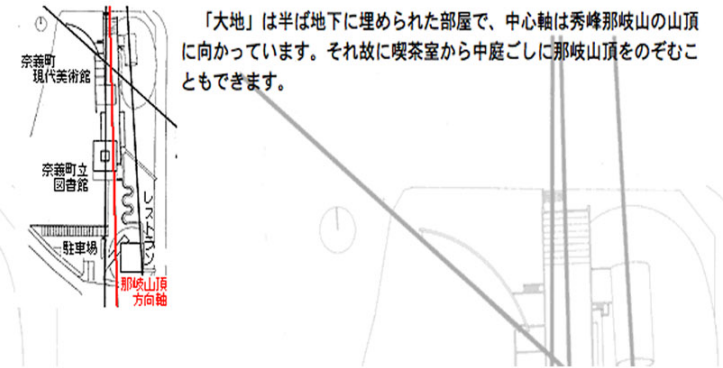
常設展示場には 3人だけのアーティストの作品が半永久的に展示されていました。荒川修作の棟を「太陽」、岡崎和郎の棟を「月」、宮脇愛子の棟を「大地」と呼んでいるが、それは作品の内容を示したのではなく、むしろ建築的な形態より連想され「見立て」られたものである。<「NagiMOCA 磯崎新」より抜粋>

展示物と展示方法は 一度は体験されるといいでしょう。

ゆっくりと 後で 体に訴えてくる 「不思議な空間」  
を持った建物でした。



# ■ 中庭を通路から眺める



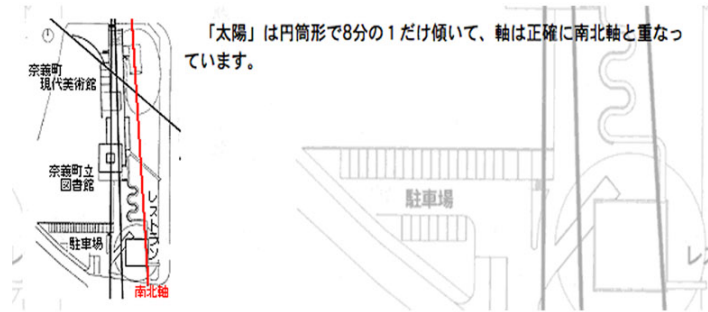
喫茶コーナーには 磯崎氏の椅子がありました。

ステンレスの大きなドアを抜けると燦々と陽光が降り注ぐ屋外展示へ。  
 しなやかな真鍮パイプの彫刻が空間をしめていた。  
 玉石を水底に敷き並べられた水は通路の際まで満々とたたえられている。  
 太陽の動きや風のそよぎ 水面に映る雲... 非日常を感じる時を過ごせる  
 のでしょう。奥には、ガラス一枚を隔てた同様の屋内スペースがあり  
 真鍮パイプの彫刻と敷き詰められた石の無機質な空間に、自然光が差し  
 込んでいるが 次第に陽から陰へ。

[うつろいゆく時間を感じる空間]でしょうか。



# ■ 太陽の部屋



「太陽」は円筒形で8分の1だけ傾いて、軸は正確に南北軸と重なっています。

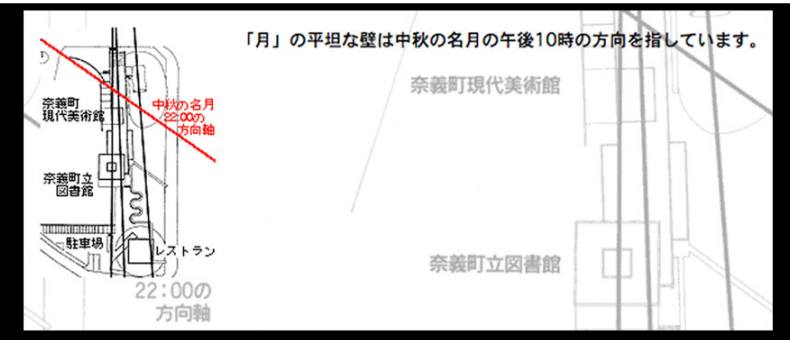
人が一人通れるかどうかの階段を上ってみたら 太陽の部屋でした。京都・龍安寺の有名な枯山水の方丈石庭が両端を囲む、円形の空間です。現代芸術ならばその作品の中に 今立っているのですが、円形で傾斜までついてます。なんとも不安定な自分を 感じてしまう。正に 今の自分の立場のような立ち姿が ここにあるからでしょうか。天井と床には、鉄棒やシーソーが置かれているが 校庭か？児童公園か？？？・・・ 庭か！！ しっくい塀をはさんでの新旧の庭ということかな。

龍安寺の庭が「宇宙との対話」を示すと云うなら ここは 奈義町の龍安寺。既存の概念が通じず、360度に取りまとめられた造りは、時空のゆがみにすら感じられてきます。私には すぐに理解できませんでしたが 日常空間があることで 考えるきっかけにする部屋だったのかな。



# ■ 月の部屋

三日月の形をした大きな部屋 それが月の部屋でした。HISASHI と呼ばれる3つのオブジェ、曲がった石のベンチ。静かな落ち着いた空間に、穏やかな気持ちを取り戻せる安らぎの場所です。



「月」の平坦な壁は中秋の名月の午後10時の方向を指しています。

## ■ 中庭から月の部屋を見る



2番目のローカの奥に物置状態だったが  
窓の外は「月の部屋」を眺められる場所があった  
何とも云いがたい空間で 真鍮パイプの彫刻が心  
地よいカーブを描いているのではないですか。  
こんなことで 落ち着くことに不思議を感じる。  
ワイヤーにすずめが止まっているようなデッサンは  
ここでは 実現しているのでしょうか？



■ 奈義町現代美術館の周辺建物



近くの建物はおしゃれな  
便所でした。





# 西栗倉の森の学校

岡山県英田郡西栗倉村影石 895 にある森の学校に到着です。

西栗倉村の山林で生産された木材は 原木の売買が目的の1次産業でした。ここから脱却するため 廃校になった学校を そのまま森の学校と称して森林をアピールする建物にしました。校舎跡の内部は、展示室・工作室・売店・事務室等に改装され 別棟の体育館は木組の家の構造モデルや幼稚園用(?)の滑り台等を展示・販売していました。

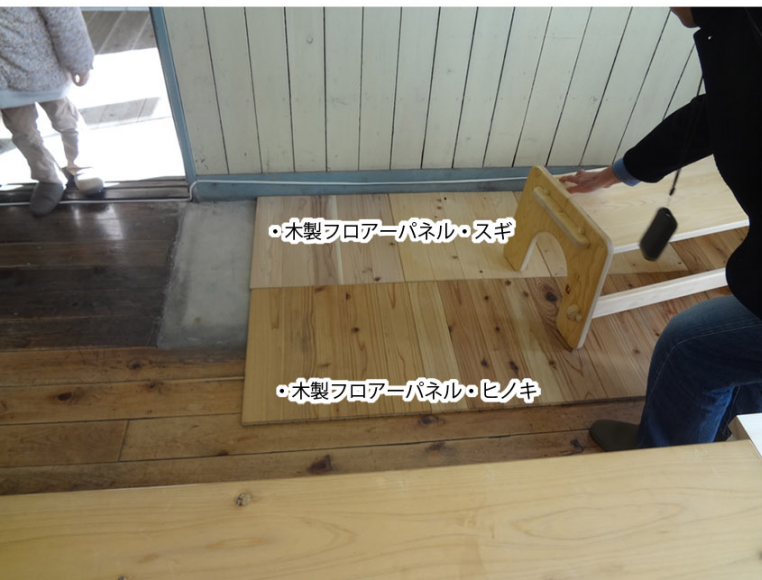
さらに詳細を語ると小学校の元職員室をリノベーションした 喫茶コーナーもあり、西栗倉産ひのきで作った木工のテーブル・椅子を体験できます。

西栗倉オリジナルのトリイテーブルやク雷斯ボークチェア、F table などの無垢の木の家具に囲まれた趣きのある空間もありました。

勿論 店内に並ぶ森やDIYに関する本を手にとり、ゆっくり過ごしていただくこともできる一般人が気楽に立ち寄れる場所でした。

私たち8名は オーダーメイドツアー(研修視察について若杉原生林や人工林、西栗倉の職人の工房や森の学校ニシアワー製造所などお客様のご要望に応じてオーダーメイドでツアー企画、実施)に参加しました。

下：サンプル展示室には 500 角のマンション向けの木製フローアパネル・ヒノキが敷き詰められていた。



上右：マンション向けの木製フローアパネル・ヒノキが敷き詰められている

中右：住宅構造実寸模型

中左：住宅構造実寸模型

下：森の学校 - 外観



# 西粟倉の森の学校 -2

訪れた西粟倉村は 87%が山に覆われた所で 人口 1537 人 世帯数 560(2013,12/1 現在) の村です。単なる田舎を豊かな田舎と進化させ 合併せずに自立の道を選択した村です。

今でも 原木は 1 次産業としての供給だけでは 将来不安な品目です。西粟倉の森林では この不安を解消したとのこと。原木をどうされているのか 興味があります。

井上氏の講義抜粋ですが 現在 森林は、全世界で 1 時間あたり東京ドーム 127 個分が消滅しているらしい。山が消えると海に栄養が回らず うまいマグロも食えなくなる。

そんなに大事な物なのに 消滅している。山は大切にしなければいけない。誰もがわかっているけども 安さ・便利さ等に流され国産木材のことは 考えてもいない。

山を緑に変えようと森林が増えている国は 植林の盛んな 中国ぐらいだそうだ。我が国(日本)の林業は 人工林 40% 自然林 60%の割合で、戦時中の森林伐採の後の大規模な造林の結果だ。造林(人工林)と云うことは 大切にしていた筈。しかし現状の林業の衰退はどうして? 通常 木材で家を建てているから使ってない訳ではない。どうして?

どうも自動車産業優先で 引き換えに材木輸入に関税規制を外した頃から 林業の衰退が始まったらしい。御家の事情に この粟倉村も引っかかった。

国産(地産)の木材は自給率は 26%である。大半が輸入材で締められている。おかげで『山は儲からない』が山林地域に広まり、山の手入れもほったらかした。木が成長しても間伐して 次が高くうる原木に 仕上げることもなく山を捨てる。若い人も山に行かない。

技術も伝わっていかない。商品にする樹木【原木】の管理が進んでいかないのである。手の入っていない木は 商品にならない。勿論 買い手も寄り付かない 一般市民も 木材は高い・腐って永久に持つ物でもない・樹種も多く 木材自体の性質も均一でない・商品も節まみれの材等・・・とか難癖を付け敬遠しがちで良い意見が出てこない。

そこに メスを入れ 山の管理・間伐の世話・売買の方法・利益の分配・商品開発等いろんな点に力を注ぎ マスコミにもアピールを行っているのが この村でした。当然のこと 森林組合の活躍もこの村の林業発展に欠かせない拠点でした。



イノシシ肉のカレーが  
おすすめのレストラン

薪ストーブもばっちり  
でした。



西粟倉はどんなところですか?

村の面積の森林率が 95%を締める自然豊かな村です。生産する主な樹種は、スギ及びヒノキ(割合は 50:50) 森林資源を生かして 森林・林業の再生と地域の活性化に取り組んでいます。



1 次産業から 6 次産業化への変更路線は 村人にいい影響になりましたか?

雇用機会が生まれ、移住者が増えました。



山の持ち主は 協力してくれていますか? 伐採には 重機の搬入路の確保が 大事と思いますが林道計画はどうやって決められるのですか?



百年の森林事業には計画の 50%の山主さんの協力をいただいています。植林計画は役場と森林組合で現地調査・測量を行っています。



顧客はどういった方法で獲得しておられますか?

ウェブサイトを見られて発注される人もおられます。ツアーや展示会・現地見学会等 いろいろな企画を実施しています。



伐採後の山はどうしておられますか?

村の事業としては 全て間伐で動いていますので 伐採後の山は再度 植林する。50 年後再度間伐を実施します。



山に興味を持ってやってくる若者は いまも増えていますか?

毎年、沢山の若者が訪れ そのうち数名が住みついてくれています。



# ■ 西栗倉の山林



三つ又の繁茂



一通りの学習をおえて現場に移動しました。

森の学校から 森林へ！バスは 山道を駆け上がり 50 年前の植林から 除伐・間伐を行って育った、樹木の理想的な場所と云う処についた。バスをおり少し山道を徒歩で登る。

間伐の行き届いた場所についた。樹間も十分あり 何より日が入って明るい。桧は枝落しもすませますぐ天に向かって 20~30M の樹高になっている。圧巻である。

エリアの境界には 三つ又が勢力を付け 前より茂っていくらしい。これも紙幣の材料として造幣局に売却されており 村は収入源となるので 喜んでいるとのことでした。

良い話ばかりなので 『山で怖いものはありますか』と意地悪な質問してみた。つぎのような回答だった。

- 自然災害 ----- 台風のような強風で なぎ倒される被害。
- 雷等での山火事で一瞬にして燃えてしまう被害。
- 手入れ不足で 雑木等の強敵の出現 鬼殺し【藁類に樹木の成長を押しさえられて成長阻害される】にあう。



間伐後の木は苔がはえ 自然に戻るのですが しっかり芯材の部分には伐採前の力が残っており 苔の繁殖をpushさえていた。切り株でも強いんですね。

しかし 悪い話になるのかな？

森林が放置される衰退していく事などは 安い木材の輸入で採算がとれなくなった人為的な災害 (林業を長期的視野で 配慮することなく、目先の対策と利益しか考えなくなる無政策) の様な気がした。

間伐現場を見る為に移動するが 今回は 時間が合わず 見られませんでした。



藁による鬼殺し現象

# 西栗倉山林の集積場

森林に行く道中での話で 山肌の木を見ていて 杉と桧の見分け方が出来るかと聞かれた。板になっていれば わかるのですが、一見 樹形は 似ているので困る。どう違うか 知っていますか？

【【桧】】はもともと あまり水分を好まないらしく 西栗倉でも尾根筋に多い。幹はスギと比べ縦の脈（筋）の幅が広く、ぺらぺらと皮がめくれてる事が多く 葉っぱは平べったくて尖ってなく、一見プラスチック製品のようにも見える。主に家の柱に使用されたりする。板材の加工で 桧の浴槽は有名な。

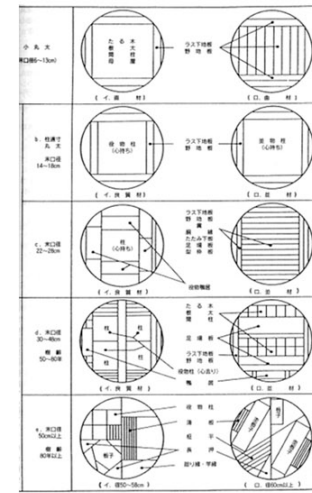
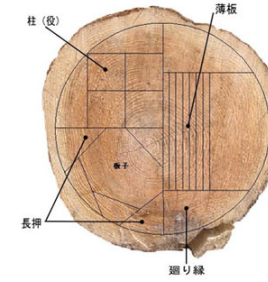
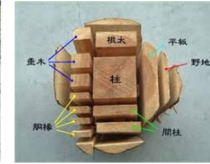
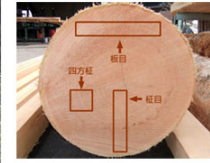
【【スギ】】は 比較的水分を好み、谷筋に生えていることが多い。幹はヒノキと比べ、縦の脈（筋）の幅が狭く、葉っぱは細長く尖っている。加工されたものは、のし板や天板等に使用されたりする。西栗倉では間伐材の割り箸がちよこつと評判。全国的に『銘木』が多く、〇〇杉等、特別な呼称が付いてたりする。



# 桧杉



## 木取りの一例



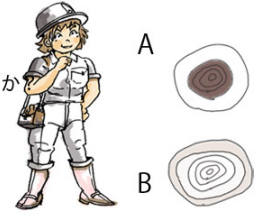
### 質問-01

左の葉っぱは【【桧】】か【【スギ】】か？

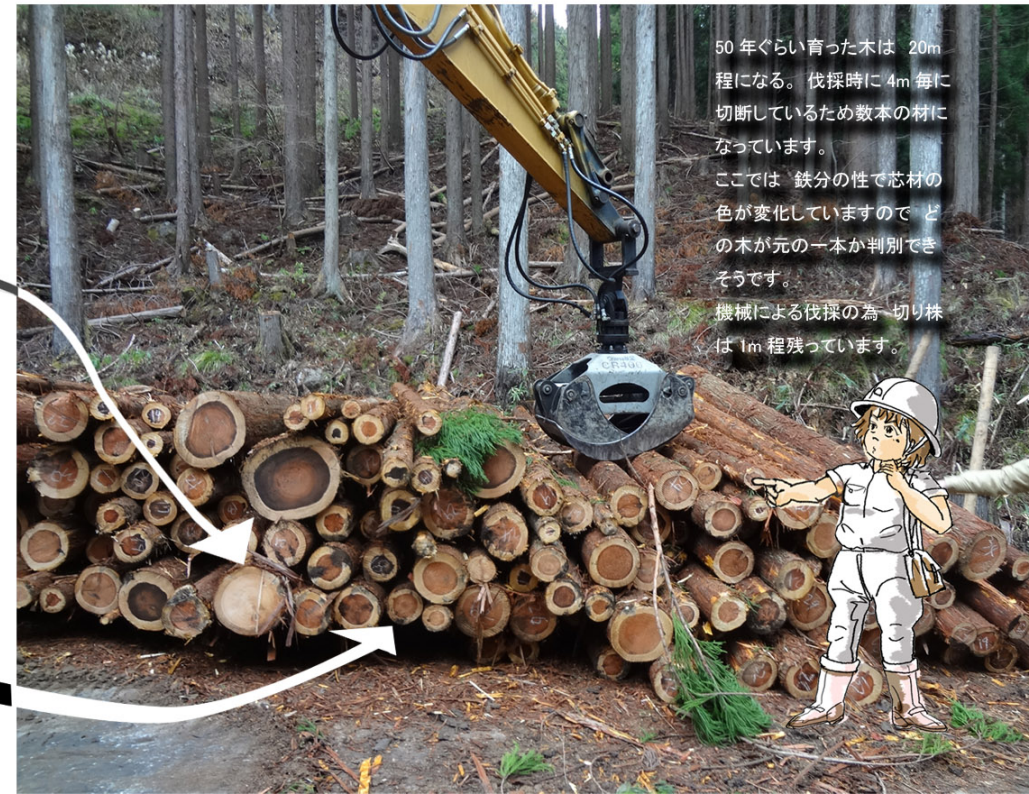
スギ でした。

### 質問-02

間伐材断面を見ることで 樹木の見分け方わかりますか？ 杉材か？ 桧材か？



A-スギ B-桧



50年ぐらい育った木は 20m程になる。伐採時に4m毎に切断しているため数本の材になっています。ここでは 鉄分の性で芯材の色が変化していますので どの木が元の本か判別できそうです。機械による伐採の為 切り株は1m程残っています。

# ■森林組合の間伐材集積場



## 除伐・間伐は

- (1) まっすぐに成長しているか
- (2) 上部の枝ぶりは貧弱でないか
- (3) 顕著な欠点はないか
- (4) 年輪幅はあまりに太すぎたり、細すぎたりしていないか

これらを見極め 水分吸収の止まる 10月頃を実施される。(間伐は 場所によっては 1~2月だが ここは雪の降る地域で時期が違う) 見学日は 11月30日 で 最盛期には 集積場にもっと 多くの材が横たわっているとのことでした。集積場は 大きくエリア分けされていた。

①- チップになるもの・合板 (かつら向きに適した) ②- 建築構造材になるのもの等 と山積みになっていた。

原木の小口 1本 1本にチョークで寸法 (直径) が書かれている。

同じ場所でも いろいろな条件で 太くも 細くもなって育っている。

手前の材は このときは 合板材で舞鶴等の加工場に行く と 聞いたのだが？

材木は 一見まっすぐ育っているようだが 微妙に曲がっていると判断されると

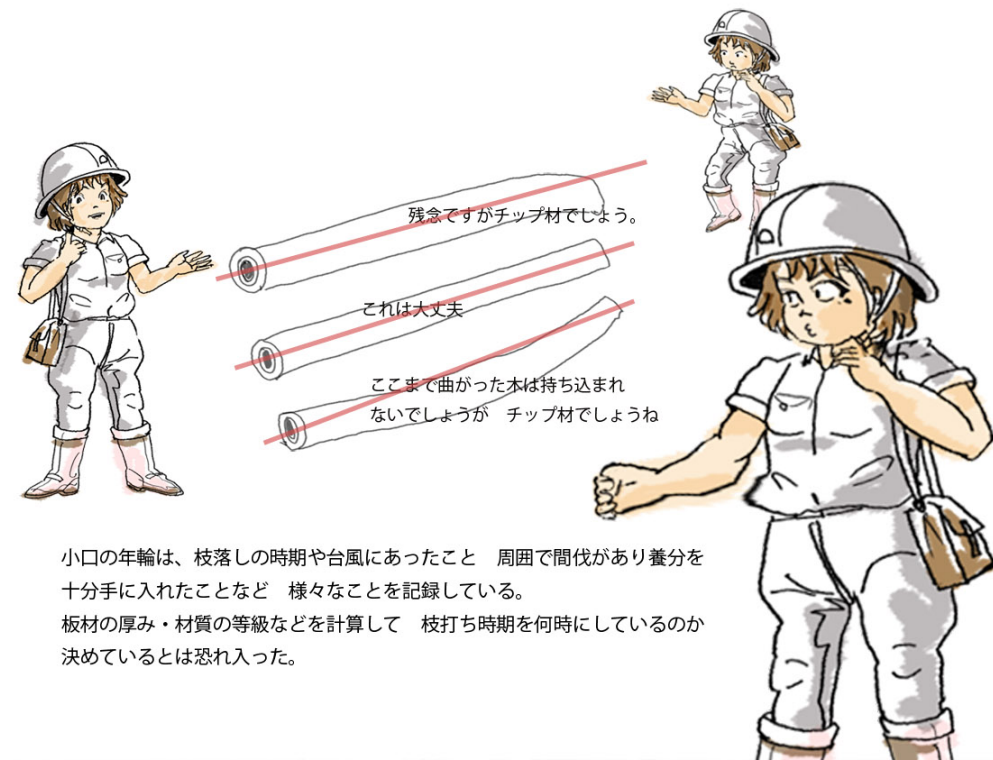
建材として失格らしい。なかなか 4mの長さを通してカットできないらしい。

乾燥時に癖が出てしまうので残念なことに ランク落ちの材に判断され加工場が決定される。

50年も管理していても 大半が チップに加工されるという。

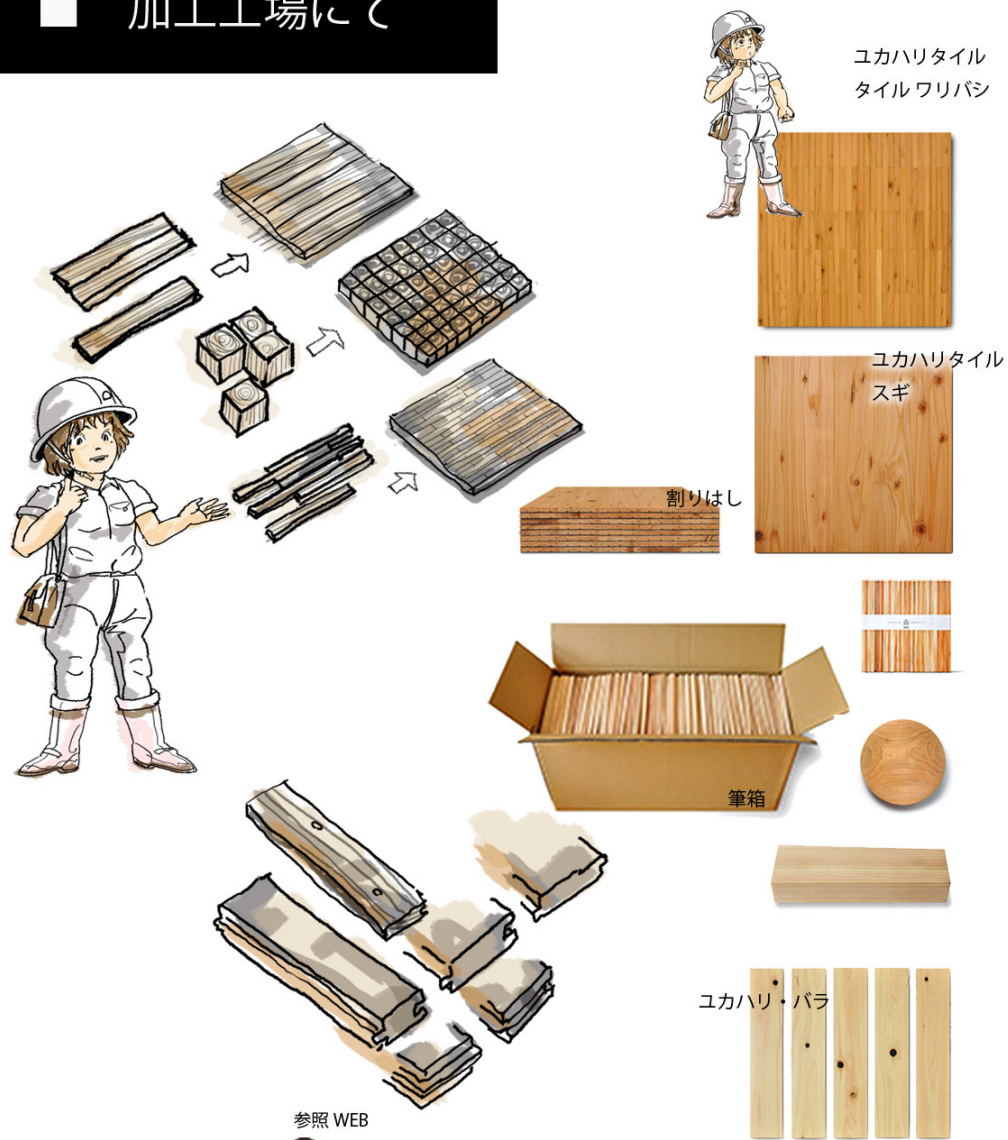
山林のスギ材・桧材の割合は 50:50ののだが この場所には スギ材が多く 奥の方に 少しの桧の固まりがあっただけでした。

たたらに残石が山を覆い ただでさえ 鉄分の多い土地で育った木の赤み部分は 伐採後に酸化が進み 赤から黒ずんだ色に変化し さらに商品にしにくい材になると云う。



小口の年輪は、枝落しの時期や台風にあったこと 周囲で間伐があり養分を十分手に入れたことなど 様々なことを記録している。板材の厚み・材質の等級などを計算して 枝打ち時期を何時にしているのか 決めているとは恐れ入った。

# ■ 加工工場にて



参照 WEB



ニシアワー ぐるぐるめぐる、西粟倉村の森と繋がるショッピングモール



加工場の大きな建物は フェルアルバムの工場跡を改修して(大きな開口部を付けた等) 使用しているとのことでした。最初に入った建物は板材の乾燥を行うところでした。一歩中に入ると 板材のにおいが ぷ〜んと 鼻をくすぐる。ヒノキの香りがスギの香り? いやもっと いい【香り】だった。乾燥自体は、山で放置して原木を水分量 20~30%にまで乾燥させ 製材した後 この場所で 15%以下にして 製品材にするとのことでした。建物内に当初 温風乾燥装置を作ったが、今では 中温蒸気式の木材乾燥機を 2基導入して、乾燥を行っているとのことでした。

西粟倉では チップ材から建材まで、大きな商品からフローリング・壁材・額縁・小口材のフローリングブロック 等の建築がらみの商品を出荷している。

一度に6面の加工が出来るモルダーマシーンを備え、これからの新たなニーズに答えるべく努力しておられた。特にフローリングの板に残った節穴の処理は 見事だった。

木材がらみの商品は左記の小品を含め 森の学校は いろんなものに挑戦しておられてビックリするばかりでした。



# あとがき

森林の現地見学会は 何時にするかで迷っていた。寒い時期に決まってしまうが当日の天気恵まれて良かった。準備に奔走してくれた「小林さんのおかげ」か？。朝早い集合にも係らず参加者は元気。まずは7人集合、挨拶をすませ すぐに出発。途中で一人をピックアップして 全員がそろった。

決めたコースは、早朝の渋滞にまきこまれるとのことで、コースを替えた。

おかげで 予定通りに奈義町に入る。建設されて 約20年の長い年月をこれっぽっちもみせない奈義町現代美術館が視界に入った。思わずビックリ。田舎だと勝手に決めていたのが恥づかしい。四角い建物と大きな筒状の建物だった。それに思っきり広い場所に建設されているのもビックリだ。見学開始したが

実は 私たち以外に訪れた人は 少なく 美術館独特の静かな時間は 十分満喫できた。偶然にも 市民ギャラリーで展覧会を開いておられた 能勢伊勢雄先生と直にお会いでき 立ち話だが 面白い話を聞くことが出来た。

ニュートンの色の取り組みと ゲーテの色彩論、興味ある話で 質問と回答をいただく事で 長話になってしまった。別れたあとで 能勢氏のギャラリーの写真展を改めて見直と、用水を流れる川底の藻やその川の流りに光が反射し輝いている様や、野の植物をフォーカスした写真も違って見えたのは私だけかな。単なる見学だったのに予想外の出会いも 参加すればこそだと素直に喜んだ。この後バス移動で メインの見学「山へ行こう」です。西粟倉の「森の学校」での暮らし創造部の井上部長の親しみあふれる案内と豊富な木材（樹木）知識に満足して帰った。

建物等見学の参加で自分に出来る事と云えば 子供の絵日記のようで情けないが 報告書作りかなと思いきや勝手に書いている。今回は イラスト等を入れてみた。この報告書はあくまで個人の見解ですのおおめに見ただけだと助かる。それより 見学会に不参加の皆さんに少しでも内容を 伝えることができたとしたら幸いだ。

平成二五年 十二月

藤本 正敏



## 筆者紹介

### 藤本 正敏

- 1949年生まれ 兵庫県姫路市 出身
- 一級建築士・ヘリテージマネージャー
- 建築士会会員（日本）  
American Society of Architectural Illustrators member(アメリカ)

発行・印刷・製本は個人の趣味の中での行動であり 著作権等は  
藤本 正敏にあります。

本書の内容を無断で転記・起債する事は禁じます。  
内容に関してのお問い合わせは メールのみ  
Eメール：fujimoto@box.email.ne.jp

平成25年12月25日